

科 目 名(Subject)	産業組織論 (Industrial Organization)		
単 位 数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	土居 直史 (Naoshi Doi)	研究室番号 (Office)	333
Office Hours	必要なときにメールなどで調整		
1. 授業目的・方法(Course objective and method)			
この授業では、企業や消費者の行動を析するために役立つ産業組織論について、その理論と実証方法を身に着けることを目的とします。 基本的には担当教員による講義で進めていきます。そのなかで適宜、受講生にも発表（関連文献についての報告など）をしてもらう予定です。			
2. 達成目標(Course Goals)			
● 産業組織論の理論を使って、現実の企業行動について考えられるようになること。 ● 需要モデルの推定方法を理解し、適切に推定できるようになること。 ● 供給モデルと需要推定値を基に、費用を推定できるようになること。			
3. 授業内容(Course contents)			
第1週 イン트로ダクション			
(理論パート)			
第2週 完全競争			
第3週 独占			
第4週 ゲーム理論の確認			
第5週 ベルトランモデル			
第6週 クールノーモデル			
第7週 シュタッケルベルグモデル			
第8週 製品差別化			
(実証パート)			
第9週 データの分類			
第10週 回帰分析と操作変数法の確認			
第11週 需要モデルの推定：単一財			
第12週 需要モデルの推定：差別化された財			
第13週 需要モデルの推定：差別化された財（より高度な需要モデル）			
第14週 費用推定			
第15週 まとめ			

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

産業組織論は、現実の企業や消費者の行動の理解を目指す分野です。そのため、普段から関心をもって経済ニュースに触れてください。具体的には、たとえば以下をおこなってください。

- 現実の企業行動や消費者行動について疑問に思う点を挙げておくこと。
- 講義で学んだ理論をもとに、その疑問について自分なりに考えること。
- その疑問に対して答えを出すために、講義で学んだ実証手法をどのように使うことができるかを考えること。

5. 使用教材(Teaching materials)

小田切宏之, 2001, 「新しい産業組織論」, 有斐閣.

Belleflamme, P., Peitz, M., 2015. Industrial Organization (2nd ed.). Cambridge University Press.

Tirole, J., 1988. The Theory of Industrial Organization. MIT Press.

Akerberg, D., Benkard, C.L., Berry, S., and A. Pakes (2006) “Econometric Tools for Analyzing Market Outcomes,” in Heckam, J.J., and E. Leamer (eds.), Hand- book of Econometrics, Volume 6.

6. 成績評価の方法(Grading)

授業への参加度（事前準備に基づく発表）：30%

期末試験：70%

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

経済学コース成績評価統一基準に従います。

8. 履修上の注意事項(Remarks)

学部レベルのミクロ経済学、統計学、計量経済学の知識を前提として講義します。